

# ☆☆☆明治大学平和教育登戸研究所☆☆☆

日時:2017年9月21日(木) 天候:晴れ 80000歩 約6km

集合:小田急線生田駅南口 13時

コース:生田駅→明治大学西北門→植村直樹記念碑→明治大学平和教育登戸研究所→生田緑地岡本太郎美術館  
→ビジターセンター→小田急線向ヶ丘遊園駅(解散)

参加者:仲(L)

平嶋 戸田 平石 大平 高橋文 熊島 平野 小林 山内 小島 平林勝 山本 武倉 中林 計15名

今日はいきなり“トラブル”発生！13時集合の生田駅で15分待つも一人連絡が取れず、一部残ってもらい先発隊は明大目指して出発しましたが、やはり携帯がないとこの様な時にリーダーも確認のしようがないですね。今回は目的のハッキリしたゆったりウォークで、明大生田キャンパス内の旧陸軍登戸研究所の見学がメインです。個人的にも以前から一度行きたいと思っていたもので、今回は絶好のチャンスと参加しました。このエリアには、専修大と明大の二校が知られていますが、明大キャンパスに入るのは今回が初めてです。ここはかつて日本陸軍の秘密兵器研究施設があった場所で、戦後の昭和25年に明治大学がその跡地を購入し生田キャンパスとしたもので、翌昭和26年には農学部が移転してきました。現在は「明治大学平和教育登戸研究所資料館」として一般に無料開放されています。係りの方に各展示室を説明して頂きましたが、初めて見る研究資料の数々と、当時の国民の目に触れない場所で密かに造られていた各種兵器に、驚きを感じずにはいられませんでした。見学後はお馴染みの生田緑地を抜け、小田急向ヶ丘遊園駅まで歩き解散となりました。

<フォトレポート 小島>



生田大谷第二公園で。今日は女性が少なく色気のないメンバーなので“二人の女子”にも入ってもらいました！



生田駅改札前で仲しよりコース説明。



駅下には柿畑が。隣は柿生駅なので「禅寺丸柿」かも。



今日は湿度が低いものの気温は上がりそうな予感が！



5分ほど歩くと明大生田キャンパスに着きます。



まずはキャンパス内の確認から。



これで見ると農学部以外にも入っています。



校舎は丘の上。“やむなく”これで！



エスカレーターを降りてもまた階段が。



構内にはこんな鳥居がありますが・・・



関連史跡の一つ「弥心神社」。元所員有志が建てたもの。



校内に残る旧消火栓。正面には陸軍の星型マークがあります。



植村直己記念碑もありました。



関連施設の五号棟跡地。偽札の印刷工場でした。



今は更地ですが何となく雰囲気は漂っています。



校内にはこんな場所も。ナマズ？



育てたナマズは後で食べるそうなの・・・残酷！



登戸研究所資料館に入ります。



説明は“ミス資料館”の若い女性。今日は当たり！？



皆さん熱心に説明を聞いています。



展示にはこんな古写真もありましたが、防毒マスク？



これが有名な「風船爆弾」の模型。



下部に吊られたパラソト（砂袋）。中心部には爆弾があります。

※風船爆弾：アメリカ本土を直接攻撃する大陸間横断兵器として開発。昭和19年から20年にかけて放球された。和紙をコンニャク糊で貼り合わせ、作成した気球に水素ガスを注入し、偏西風に乗せて約9000kmもの距離を飛行させ、気球に吊った爆弾をアメリカに運ぶもので、放球数はおよそ9300発とされているがその効果は殆どなかった。



気球はこの様な和紙を何枚も張り合わせています。



展示ケース内の賞状には東条英機の文字も。



長野で発見された濾水機と濾過筒（左側の筒）



ここで作られていた偽札。当時としてはかなり精巧。



偽ルピーやドルも。



趣のある廊下。



当時のままの電灯と配線。



見学を終え帰路に。



裏口から出るのも KWC 流？



暑いので木陰を選んで歩きます。



生田大谷第二公園に入ります。上り階段だ～



前方には洒落たマンション群が。ここ何処？



生田緑地入り口で。チェアマン&チェアウーマン？



見下ろすとすでに紅葉している木も。



ここは旧クラブハウス跡だったようです。



現在でも現役のゴルフ場。



コースの一部が見下せます。



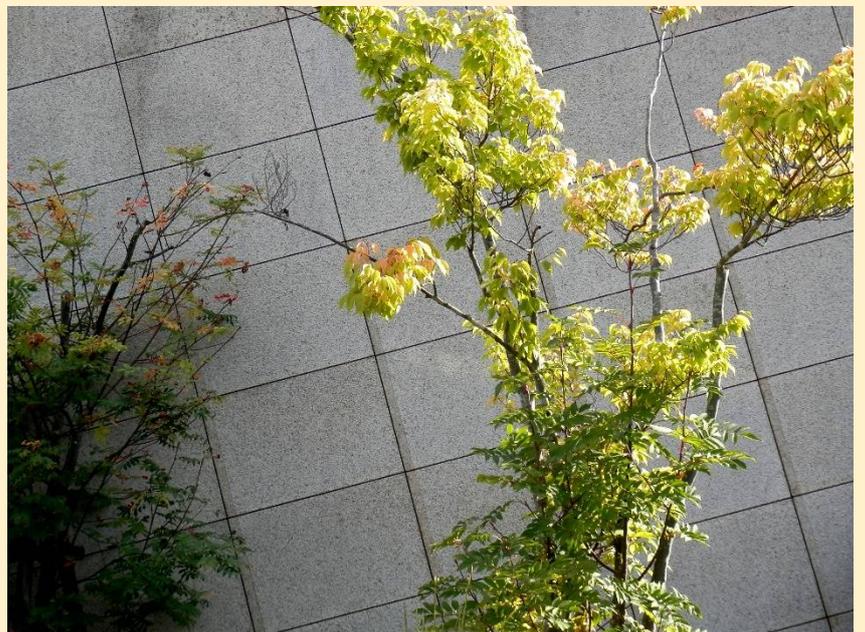
クラブ横を下ると例の作品が。



岡本太郎の「母の塔」をバックに。これは同美術館のシンボルタワーで「岡本かの子」文学館に向かって建つ。

←正面から見た作品。デフォルメされた母親の姿？

↓美術館に沿ってゲイジュツ的な樹木も・・・





何故か記念館と美術館の間の大階段で。全員“フリースタイル”で並んでいます！



ローム層斜面崩壊実験事故慰霊碑。



生田緑地内ベンチで最後の休憩です。早くアフターに行きたい？

※ローム層実験事故：昭和46年11月、関東に広がるローム台地におけるがけ崩れのしくみを解明すべく、科学技術庁は昭和44年度から三カ年計画で5500万円の費用で研究を進めていた。内容は、生田緑地公園内に設定された試験地において、実際に斜面に散水し降雨を再現することで、人工的に斜面崩壊を発生させ、基礎データを収集というものであったが、轟音とともに斜面に爆発的な崩壊が発生。崖上部から捨土、ローム層本体、さらに砂礫層の一部が崩落し、土砂は防護柵をなぎ倒して崖下55mの池にまで到達した。その崩壊の速度及び規模が予想外に大きかったため、実験関係者、報道関係者を含む25名が生き埋めになり、15名(実験関係者11名、報道関係者4名)が死亡、10名が負傷した。



さあ向ヶ丘遊園駅に向かいます。左側は日本民家園。



日本民家園50周年記念モニュメントの寄せ書き。



駅に到着。歩数&距離を確認しここで解散です。



アフターは「KWC 御用達」の「庄や」で。

■旧陸軍登戸研究所■1939年(昭和14年)1月、「謀略の岩畔」との異名をとった陸軍省軍務局軍事課長・岩畔豪雄大佐(正確には軍事課長就任は同年2月、大佐昇進は同年3月)によって、特殊電波・特殊科学材料など秘密戦の研究部門として、通称「登戸研究所」が「陸軍科学研究所」の下に設立された。登戸研究所の前身は1919年(大正8年)4月に「陸軍火薬研究所」が改編して発足した「陸軍科学研究所」のため、当初の正式名称は「陸軍科学研究所登戸出張所」であった。所長には篠田鐮大佐が就き、1939年(昭和14年)9月に正式発足した。1941年(昭和16年)6月に「陸軍科学研究所」が廃止され、「陸軍科学研究所登戸出張所」は「陸軍技術本部第9研究所」に改編。1942年(昭和17年)10月、陸軍兵器行政本部が設けられ、その下の「第9陸軍技術研究所」に改編。1943年(昭和18年)6月、電波兵器部門を多摩陸軍技術研究所へ移管。1945年1月、「帝国陸海軍作戦計画大綱」が発表され、本土決戦準備のため、登戸研究所は長野に移転した。20年8月15日、敗戦が決定すると、陸軍省軍務課は「特殊研究処理要綱」を通達し、すべての研究資料の破棄を命令。それらの資料の殆どが処分され、また、ほとんどの関係者が戦後沈黙したため、長らくその研究内容は不明だった。

- 第一課:電波兵器、気球爆弾、無線機、風船爆弾、細菌兵器、牛疫ウイルスの研究開発
- 第二科:謀略戦用兵器の研究開発
- 第三科:経済謀略戦用兵器の研究開発:法幣の偽札製造を実行していた。
- 第四科:機械や爆弾の組み立て

### <研究・開発された兵器>

原子爆弾、生物兵器、化学兵器、特攻兵器、謀略兵器、風船爆弾、缶詰爆弾、怪力光線、殺人光線、電気投擲砲。

怪力光線などのようにいささか空想じみた研究をしており、実態が不明な点が多いこともあって、各種創作物の中ではオカルトめいた怪しい研究所として描かれることが多い。しかし実際には、どちらかといえば謀略やBC兵器、特攻兵器のような、地味かつあまりイメージのよくない研究が主だった。中華民国の経済を乱すため、当時として45億円もの中華民国向けの偽札がこの研究所で作られ、30億円もの偽札が中華民国で使用された「杉作戦」が有名である。

## <跡地>

戦後、登戸研究所跡地は民間に払い下げられ、慶應義塾大学工学部予科が使用していたが、慶應義塾大学が日吉キャンパスの復興にともなって移転したため、1950年(昭和25年)に11万坪のうち3万坪余を明治大学に譲渡し同大学の生田キャンパスになった。明治大学譲渡後も、建物は校舎として使用された。老朽化のため建物の大部分は取り壊されたものの、枯葉剤の研究が行われたと見られる「36号棟」のほか、動物慰霊碑や消火栓など当時の施設がまだ幾つか現存している。2010年3月29日、前述の「36号棟」の建物をそのまま利用する形で資料館が開館した。当時の貴重な資料や解体された棟のドア、柱などの建築部材が展示されている。

※なお説明文は登戸研究所資料館の資料及びその他より引用。興味のある方は是非一度出かけてみては？

END